

出生祝い 第3子は200万円

武蔵野グループ

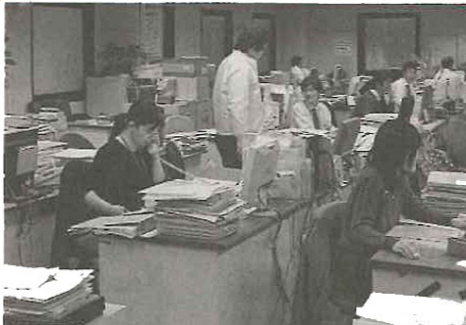
セブーンイレブン・ジャパン向けに弁当や総菜を供給する武蔵野（埼玉朝霞市）グループは出生祝い金制度を今月から大幅に拡充する。従来は子どもが生まれた社員にその都度10万円を支給していたが、50万（第1子）〜200万円（第3子以降）に増額。入学祝い金制度も新設した。子育てする社員を厚く支援する仕組みを設け、採用面でのプラス効果や社員の就労意欲の向上を狙う。

出生祝い金制度は武蔵野グループの正社員が対象で、第1子が生まれた社員に50万円を、第2子

採用でアピール

入学時には最大50万円

子育て
2015



子どもの成長に応じて祝い金を支給し、社員の定着率向上にもつなげる

出生祝い金と入学祝い金のイメージ（勤続3年以上の場合。パート除く）

| | 第1子 | 第2子 | 第3子以降 |
|-------|-------|-------|-------|
| 出生 | 50万円 | 100万円 | 200万円 |
| 小学校入学 | 20万円 | 20万円 | 20万円 |
| 中学校入学 | 30万円 | 30万円 | 30万円 |
| 高校入学 | 50万円 | 50万円 | 50万円 |
| 合計 | 150万円 | 200万円 | 300万円 |

れ半額になる。勤続1年以上のパート社員にも、従来は1万円だったが、子どもが生まれれば子どもの数に関係なくその都度、10万円を支給する。

12月に制度導入を決めたが、今年度当初にさかのぼって適用する。「既に子どもがいる社員も新制度のメリットが得られる」（二俣正光専務）ように、例えば第1子がいる社員の家庭に第2子が生まれた場合には、第2子の祝い金を支給する。

入学祝い金制度では、子どもが小学校や中学校、高校の入学時にそれぞれ20万〜50万円を支給する。既に中学生の子ど

もを持つ社員の場合では、例えばその子どもが高校に進学した時に50万円を支払う。

同社は2009年、子育て支援に積極的な企業を厚生労働省が認定する「くるみん認定」を得るなど、社員が仕事と子育てを両立できる環境づくりに進めてきた。ただ、

日本社会の人口減少に歯止めが掛からない中「民間レベルで少子化の流れを憂える雰囲気づくりができれば」（安田定明会長）として、経済支援の大幅拡充を決めた。

同社グループは現在、正社員が計約1500人、パートが1万人強働いている。新制度で年間

1億円強の負担が会社側に生じる。

安田会長は「社員の『仕事と子育てを頑張ろう』という意欲が高まれば、企業の成長の原動力になる」と語る。

同社は新制度を採用活動でもアピールする方針だ。同社は来春入社の新入社員を100人確保す

る目標だが、売り手市場で内定者は80人程度にとどまる。出生祝い金や入学祝い金の厚さを学校に届けた説明会などで紹介することで「将来的に仕事と育児の両立を希望する学生が入社を積極的に検討してくれるきっかけになれば」（同社）と期待している。